

子どもゆめ基金20周年記念事業「森の声キャンプ」

令和3年10月16日(土)～10月17日(日)

2021 10/16(土)～17(日)
子どもゆめ基金20周年記念事業

森の声キャンプ
なにがきこえる?

対象: 福井県 嶺南地域在住の 小学校1～3年生の子を含む家族 6家族

参加費 子ども 2,300円 おとな 2,330円
(子ども食費1,625円・おとな食費1,655円・備品保険料211円・シート代 300円・雑費164円)

お申込 WEBフォームよりお申し込みください。申込〆切 10/2(土) →

PROGRAM

DAY1
13:00 受付
13:30 レクリエーション
14:00 Let's アウトドア!
*子ども…森の探検隊
*おとな…焚き付け体験
17:00 夕食(食費)
18:00 たき火
20:00 入浴
21:00 就寝(宿泊費で寝ます)

DAY2
7:30 朝食(食費)
9:00 家族で無料BETゲーム
10:30 アウトドアクッキング(家族ごと)
*野菜とお肉のダッチオープン料理
14:30 解散

森を感じる2日間

ダッチオープン体験

LINE QRコード

主催: 国立若狭湾青少年自然の家
担当: 小谷田(ここのけ)・井石(いし)・鈴木(すずき)
〒917-0198 福井県小浜市田島区大浜
TEL:0770-54-3100 mail:wakasan-1@niye.go.jp



森の探検隊(子ども)



焚き付けチャレンジ(大人)



親子合流・沸かしたお湯でお茶タイム



簡後のおえかき(キャンドルサービスの中で行った)



フードハンティングゲーム



ダッチオープン料理体験

1. 目的

- 新型コロナウイルス感染症の影響で、直接体験の機会が減少していることをふまえ、親子で自然体験活動に親しむきっかけを提供する。
- 自然の家の森林を活用することを通して、SDGs15(陸の豊かさを守ろう)のテーマを体感し、自ら考える機会を提供する。

2. 参加実績

福井県嶺南地域在住 6家族 21名(未就学児3名、小学生9名、保護者9名)

3. 日程

	10月16日(土)	10月17日(日)
午前		9:00～11:00 フードハンティングゲーム ※荒天のため、場所を館内に変更
午後	13:15～13:45 アイスブレイク 14:00～16:30 おとな・子どもに 場所を分けて活動 *大人: 焚き付けチャレンジ *子ども: 森の探検隊 ※未就学児は、原則大人プログラムに参加した	10:30～13:00 アウトドアクッキング(ダッチオープン) ※荒天のため、場所を海の学習室に変更(移動式かまどを1Fで使用した) 13:30 解散 ※料理体験が早く終了したため、予定より1時間早く13:30頃の解散となった
夜	キャンドルサービス ※雨天のため、「たき火」から変更	

4. 参加者の声

<対象：子ども>【設問：森のなかで感じたこと・気づいたことがあったら教えてください】

- ・もりのこえをききました。みずをすっていることにおどろきました。
- ・山下りで鳥の音や海の音が感じました。理由は、鳥の音や海の音はあまり聞いたことはないので、鳥の音や海の音が感じました。
- ・色々な種類の葉っぱがあって秋がシーズンの葉っぱもたくさんあったので、すごくきれいでした。
- ・わたしたちは、森の中ではちょうしんきやメジャーをつかって、いろいろなことをして、おどろきました。また、やりたいです。

森での気づき

<対象：大人>

【設問：事業全体を通して、いかがでしたか】

- ・大人、子供別のプログラムや親子のプログラムがあり、よかったです。
- ・天候に合わせて、無理のない行程でした。
- ・子供たちが普段できないことができてよかったです。

【設問：森で過ごして、感じたこと・気付いたことがありましたらお書きください。】

- ・火おこしのコツ、薪割りのコツ、色々教わって、頭で考えるよりやってみると案外楽しくできたので、また家族でチャレンジしたいと思います。
- ・なたを使ったこともなくて、使うときにドキドキしましたが、子どもと一緒に楽しくお湯をわかすこともできうれしかったです！！次はキャンプで使ってみたいなと思ってます。
- ・まきを割ったことがなかったので体験できてよかった。久しぶりに森のなかに入って自然を感じれた。静かだった。
- ・木に囲まれると、心が落ち着きました。風の音や波の音を感じやすかった。
- ・風も音も、全てが気持ちよく、リフレッシュできました。(略) いつも子供がべったりなのですが、子どもチームと大人チームに分かれての活動で、少しだけたくましくなってくれたかなと思いました。

5. 成果

・募集時点で、福井県独自の緊急事態宣言が発令されていたため、嶺南地域を募集対象とした。アンケートでは、参加理由に「コロナで旅行等行けず、家族で楽しいイベントをつくりたかった」という意見が複数あったことから、「親子で自然体験活動に親しむきっかけを提供する」という目的を達成できたと考えられる。

・アンケートの記載から、1日目の午後に行った大人・子ども別の活動が、五感をつかって森をじっくりと体感する時間となったと考えられる。また、プログラムの中で、森の豊かさや海と森のつながりについて話題を取り入れ、森林の持続可能性（SDGs 目標 15）を考えるきっかけを提供することができた。

6. 事業運営のツボ・工夫・反省

【当日】

○親子でリフレッシュする時間を重視し、ゆとりのあるプログラム構成とした。また、未就学児の参加（1日目は大人プログラムに同行）があったことから、移動時のフォロー・スムーズな動線の確保に努めた。△ダッチオープン体験が初めての参加者にとって、シーズニングなどの専門的な説明はわかりにくい部分があったと考えられる。レシピだけでなく、メンテナンスについても補助資料を用意し、模範的に指導する必要がある。

【広報】

△当初、SNSと嶺南地域の公共施設にチラシを配架し広報を開始した。しかし、応募が少数だったため、若狭町・小浜市の対象児童にチラシを追加配布したところ、応募総数は21家族となった。チラシ広報の効果を考慮しながら、効率的な広報を検討する必要がある。